
恋について

梅酒の梅子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
恋について

【コード】
N6157B

【作者名】
梅酒の梅子

【あらすじ】
本を読んでとても共感したことがありました。

昔の本を読み返して共感したこととゆうか

「ああなるほど確にそうだ」と思ったことがあったので、ここで紹介したい。

この本は私が昔から好きな作家の作品だ。

私になるほどと思ったのはこの本の解説だ。

「解説……恋におちるというのは、どこか死に似ていると、

（著者）さんの小説を読んでいて、時折、思う。

自分が自分でなくなつてゆくあの感覚。肉体はここにあるのに、気持は空を浮遊して、どこかとんでもないところに行こうとしている。誰も止められない。どうにも戻れない。そんな不安が全身を包み、時には恐怖すら覚える。けれど、それはとても甘美な恐怖だ。

こんなことを書くと、何だか本作品」
「が、死をテーマにした小説のように思われたらとても困るのだけど、何と云えばいいのだろう、恋というのはいつだって、魂を奪い取られてしまうものだと言いたかったのだ。

本当に、恋とは不思議で厄介なものだ。

嬉しくて楽しくて幸せで、世の中の誰に対しても優しくなれ、私つてこんなにいる人だったのねと、ひとりくふくふ笑ってしまう瞬間があると思いきや、切なさや悲しさと腹立たしさに頭を抱え、嫉妬や憎悪にまみれ、世の中の幸福すべてを憎んでいる自分に気づき、唇を噛み締める時もある。

それは、やはりひとつの小さな死を意味するように思う。今までの理性やモラルが崩壊し、自分はいったいどういう人間だったのだろうと途方に暮れる。けれど、同時に、それは再生を意味することでもあるはずだ。恋した瞬間、知らなかつた自分がむくむくと目を覚まし、息づきはじめる。

まさしく、この小説は、恋を前にして危うく揺れる女たちと男たちを描いた作品である。ここには多くの人物が登場する。

〈途中略〉

実は先日、さんとお会いするチャンスに恵まれた。

その時の、さんの言葉がずっと忘れられないでいる。

「恋は一点突破だと思っの」

顔でもいい、声でもいい、性格でも、セックスでも、とにかく、一点を突破するところから恋は始まる。平均して、とか、満遍なく、とか、概ね、なんて考えるから恋が始まらないんだわ。

その通りだと私も思う。

恋なんて、どのみち、尋常なものではないのだから。どれくらい尋常でいられなくなったか、それが恋の醍醐味なのだから。」

3

です。共感されるかたも多いのではないのでしょうか？

私は恋するたびにきつとこの言葉たちを思い出してしまっだるつとおもいました。

(後書き)

共感された方いらっしゃいましたか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6157b/>

恋について

2011年10月3日02時31分発行